平成29年度　第3回遺跡見学会　平成29年12月16日（土）

発掘された中世武士の館跡

蓮田市

新井堀の内遺跡

（あらいほりのうち）

新井堀の内遺跡は、大宮台地東側の白岡・黒浜支台に位置している遺跡です。

遺跡には、古くから中世の館跡の存在が知られていました。

今回の調査では、戦国時代の深い堀跡が２条ならんで発見されました。また、その時代に掘られた井戸跡も見つかりました。

幅広く、とても深く掘られた２条の堀は、往時の館の姿を伝える貴重な遺構です。

館跡遠景

主催／埼玉県教育委員会
　　公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
共催／蓮田市教育委員会

新井堀の内遺跡の南東約5.2kmには、太田氏が治めていた岩付城があります。また、谷を挟んで北東約1.8kmには、江ヶ崎城が位置しています。

周辺には、いくつかの館跡が分布しています。新井堀の内遺跡にあった館の主が仕えていたとされる太田資正は、1564年、岩付城を追われています。常陸国（ひたちのくに）に逃れ、城を奪い返そうとしますが失敗に終わっています。

そのため、新井堀の内遺跡にあった館跡もその後、武士の館としての役割を終えたと考えられます。

江ヶ崎城（えがさきじょう）

出典：「埼玉の中世城館跡」
埼玉県教育委員会　1988

江ケ崎城は『新編武蔵風土記稿（しんぺんむさしふどきこう）』に堀ノ内とあり、城跡として伝わっています。城の城主は文献もなくわかっていません。北側には堀跡が残っています。また、１９５７・１９５８年の発掘調査では、土塁に並行して２本の溝跡が見つかっています。

岩付城（いわつきじょう）

出典：「中世北武蔵の城」
梅沢太久夫　2003

岩付城は、江戸城とともに、扇谷（おうぎがやつ）上杉氏の勢力圏を守る大きな役割を持っていました。

太田資正（すけまさ）（三楽斎（さんらくさい））の時代に後北条（ごほうじょう）氏に敗れ、その後は後北条氏の支配下に入りました。

新井堀の内遺跡の周囲には、小さな谷が複雑に入り込んでいます。
この地形をうまく利用して館は造られていたと考えられます。
館の北側や西側の谷は、天然の堀の役割をしていたと想像できます。

戦国時代の館の主は、岩付城主太田資正の家臣野口多門であったと伝わっています。（岩槻巷談より）

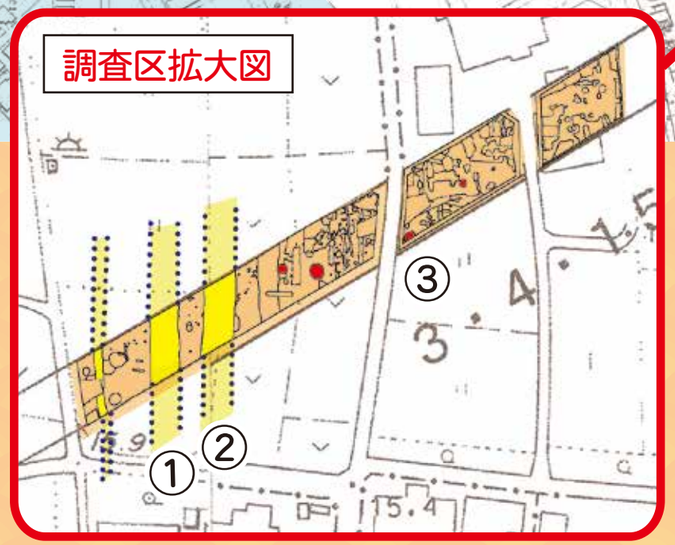
①

堀跡は断面「V」字の形に深く掘り込まれています。落ちたら、這い上がるのが大変です。

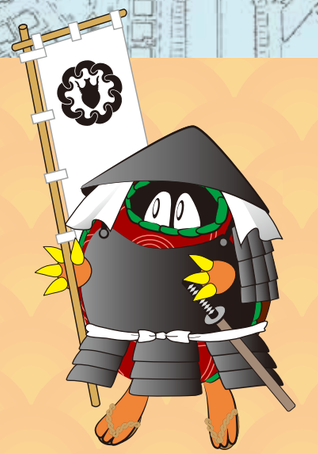
②

左側の堀跡は、右側の深い堀が埋まった後に新たに堀り直されていました。

遺跡の北側の谷に降りる道です。道の先の谷には堀があり、橋が掛かっていたと伝わっています。



井戸跡から出土した志野焼の皿

③

井戸跡からは、陶磁器やカワラケが発見されました。また、捨てられたイシガイやマツカサガイが見つかりました。戦国時代の貝塚です。